CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

1-1 建物概要			
建物名称	(仮称)ライズ光の森	階数	地上12階、地下0階
建設地	熊本県菊池郡菊陽町光の森7丁目4	構造	RC造
用途地域等	近隣商業	平均居住人員	120 人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年6月 予定	評価の実施日	2025年2月28日
敷地面積	883 ㎡	作成者	(有)MON設計事務所
建築面積	266 ㎡	確認日	2025年3月3日
延床面積	2,722 ㎡	確認者	(有)MON設計事務所

1-2 外観

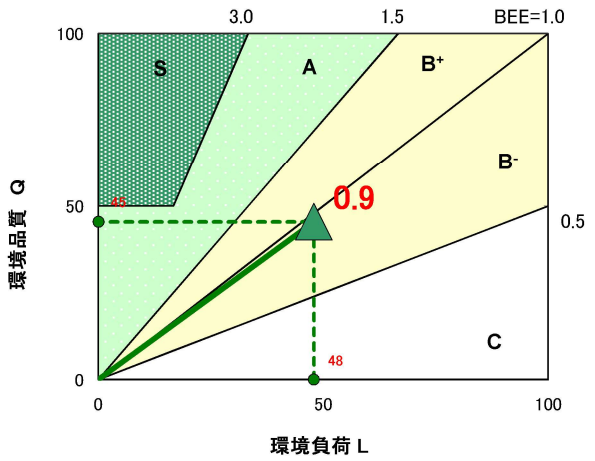
2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★☆☆☆

BEE = 0.9

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値 BEE値	判定値 Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

★★★★☆

排出率

51%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点

68

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	67.2
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	61.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	60.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	83.4

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

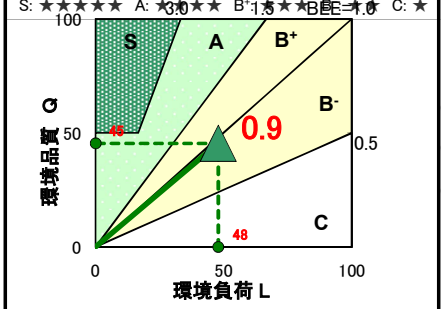
建物名称	(仮称)ライズ光の森	階数	地上12階、地下0階
建設地	熊本県菊池郡菊陽町光の森7丁目4	構造	RC造
用途地域等	近隣商業	平均居住人員	120 人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年6月 予定	評価の実施日	2025年2月28日
敷地面積	883 ㎡	作成者	(有)MON設計事務所
建築面積	266 ㎡	確認日	2025年3月3日
延床面積	2,722 ㎡	確認者	(有)MON設計事務所

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

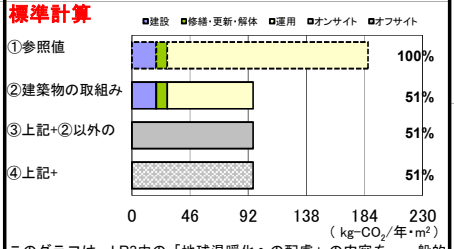
BEE =0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



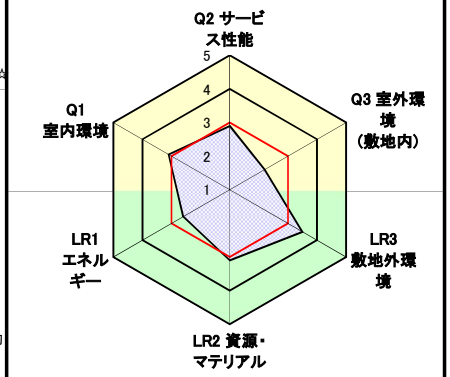
2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

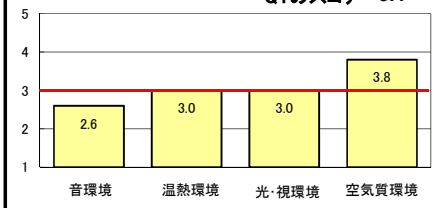
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



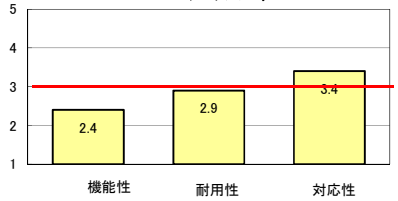
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　Q のスコア= 2.8

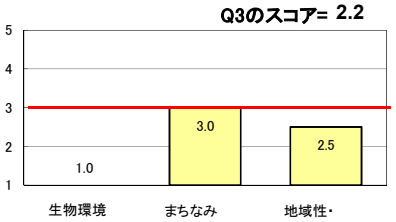
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.9

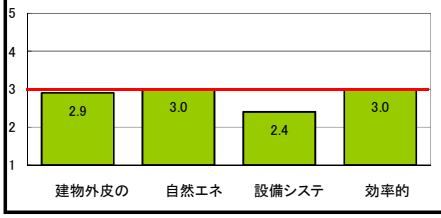


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.2

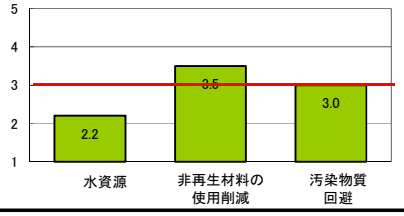


LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.0

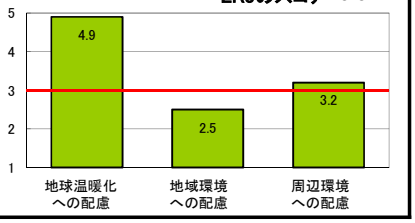
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 2.6



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.1



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.5



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点＝ 68

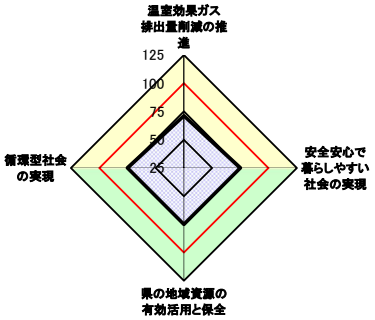
重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進　67.2

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現　####

重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全　60.0

重点事項4:循環型社会の実現　83.4

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)ライズ光の森

評価点が3超の項目　水色セル欄に数値やコメントを記入

⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境			0.40		-	3.1
1 音環境		2.0	0.15	2.7	1.00	2.6
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		1.0	0.50	2.4	0.50	
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御		3.0	1.00	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.62	3.0	0.63	
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	3.0	0.20	
2.3 空調方式		-	-	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.7	0.25	3.1	1.00	3.0
3.1 昼光利用		4.2	0.30	3.4	0.30	
1 昼光率	【共用部】対象室無し 【住居部】(Aタイプ)昼光率 2.15% 【事務所】昼光率:2.80%(テナント)	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	【共用部】【住居部】 規制対象品は全てF☆☆☆☆ 【事務所】 規制対象品は全てF☆☆☆☆	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量		3.0	0.49	3.0	0.33	
2 自然換気性能	【住居部】Aタイプ0.227(1/6以上) 【事務所】0.067≧0.067(1/15)	5.0	0.02	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.49	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	2.9
1 機能性		3.0	0.40	2.4	1.00	2.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	2.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	2.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	【住居部】 給水管:硬質塩ビ管(B)、排水管:硬質塩ビ管(B) 【事務所】対象外(スケルトン)	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	

		3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
		4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
		5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.0	0.30	3.5	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり		3.0	0.02	4.0	0.50	
1 階高のゆとり	【住居部】階高（基準階）2.915m 【事務所】階高:3.60m	3.0	0.60	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	【住居部】壁長さ比：0.24 【事務所】壁長さ比：0.37(1階)	3.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	0.98	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	3.0
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	2.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.9	0.20	-	-	2.9
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 1.05	2.4	0.50	-	-	2.4
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護		2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水		1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	【事務所】対象外（スケルトン） 【共同住宅】再生クラッシャラン、パーティクルボード（置床下地）	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	【建物全体】 ・躯体と仕上材が比較的容易に分別可能（GL工法） ・内装材と設備が錯綜せず、取外すことができる（LGS下地、木下地）	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	【建物全体】CO2排出率51%	4.9	0.33	-	-	4.9
2 地域環境への配慮		2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.33	-	-	
2 振動		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	【建物全体】 ・光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たす ・広告物照明無し	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート　※手動入力は不要	実施設計段階
建物名称	*(仮称)ライズ光の森*

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)　　■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		68
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				67.2	0.40	26.88
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.7	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	2.9	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				83.4	0.20	16.68
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　(各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数)の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点　＝　(各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数)の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

（仮称）ライズ光の森

印刷：モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作：改行の際は【Alt】キー＆【Enter】キーで次の行に進みます。

	計画上の配慮事項　※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	良好な景観になるよう外観の色調などに配慮し、敷地内に緑地スペースを計画した。
Q1 室内環境	・屋根、外壁など外部に接する部分は断熱材を設置し、各住戸に開口部もできる限り大きくとることで居住者の快適性に努めた。 ・規制対象品は全てF☆☆☆☆を使用。
Q2 サービス性能	・バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす計画とした。 ・居室の天井高を2.6m以上確保し、居住者にゆとりのある空間を提供することに努めた。
Q3 室外環境 （敷地内）	・建物の配置や形状について、周辺建物とのバランスを考慮し計画した。。
LR1 エネルギー	・外部に面する部分は断熱材を設置し、空調負荷の軽減に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	・躯体と仕上材を容易に分別できる設計仕様とし部材の再利用に努めた。 ・断熱材や空調機冷媒には、環境負荷の少ない材料を選定した。
LR3 敷地外環境	・敷地内に十分な駐車、駐輪スペースを設け、居住者の利便性に努めた。
その他	